

■知的障害のある子どもたちへの実践事例

米づくりの学習

—マルチメディアDAISY図書を活用して

鳥取大学附属特別支援学校

司書教諭 村上 佳代、教諭 勢登 睦、学校司書 入川 加代子

はじめに

本校は、小学部1年生から高等部専攻科2年生までの児童・生徒・学生53名が在籍する知的障害特別支援学校です。

本校では、おもに朝読書の時間や昼休憩の時間などの余暇活動として、また図書館のイベントなどでマルチメディアDAISY図書を活用してきました。

本研究では、学習の導入とまとめに活用した実践について紹介いたします。

学習活動の取り組み

本校中学部は、鳥取大学農学部のフィールドサイエンスセンターに協力いただきながら、学校農園にある水田で米づくりをしてきました。中学部全体で取り組んできましたが、行事の精選やどの生徒も3年間ですべての作業班を経験することから、昨年度より農園班が担うことになりました。また昨年より新たな試みとして、白米からもち米に変更して新たな挑戦を始めました。

農園班の概要

本校中学部の作業班は3つあり、農園班のほかに手工芸班、陶芸班があります。1学年5～6名で構成されており、農園班所属の生徒数は5名です。

農園班の学習内容として米づくりのほか、トマトやナス、ポップコーン、さつまいも、じゃがいもなどの季節の野菜を育ててきました。また秋から冬にかけて「ひと畝オーナーになろう」という学習で、個々で調べて冬野菜を選び育てるといった活動があります。現在、小松菜、白菜、たまねぎ、ラディッシュなどを生育している最中です。中学部棟の中庭にある畑へ行き、休憩時間にそれぞれが水やりをして育てていく過程を楽しみながら観察をしています。

実際の取り組み

(学習の流れと生徒の様子)

◎導入にマルチメディアDAISY図書を活用

稲刈り以降の導入に活用

〈ねらい〉

育てた稲がこのあとどのような過程を経て、私たちの知る「米」になるのか理解し、活動をイメージする。

〈学習の流れと生徒の様子〉

『もみごめぼうやのだいへんしん』

ともえだやすこ作・絵

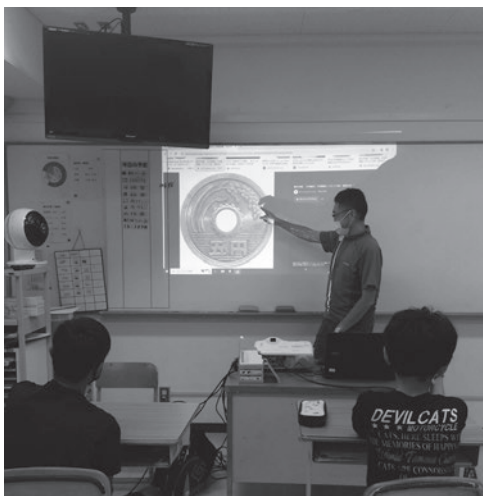
銀の鈴社 より（一部）



【学習の流れ】

- ①『もみごめぼうやのだいへんしん』より一部抜粋し、稲刈りなどについて視聴しました。これからの活動のイメージを広げることにつながるよう、導入として活用しました。
- ②司書よりさらにくわしい『お米から育てるおにぎり』の本とマルチメディアDAISY版の紹介をしました。「みなさんが6月に取り組んだ代かき・田植えも載っていますよ」とページを開き、読みながら話しをしました。
- ③さらに知識を深めることで興味・関心をひきだすことをねらいとし、5円玉に描かれた絵を見てみようとして、プロジェクターに映し出し、昔から

米づくりが行われ、生活と密着していたことを学習しました。



授業の様子

【生徒の様子】

この学習の前に実際に水田に見に行

くと夏休みをはさみ、急に大きく成長した稲穂を見て、「すごい!」と思わず声が出ていた生徒がいました。毎日交代で水やりをし、世話をした稲がどうい過程で大きくなっていったのか、マルチメディアDAISY図書を静かに視聴していたことが印象的です。

また、本書の「もの知りコーナー」で「米」という漢字の意味や、米が食卓に並ぶまでなどの視聴もしました。授業者の5円玉の話もあわせて、米が昔から私たちの生活と密着していたかを知り学ぶことができました。どの生徒も興味深くこれからの活動を楽しみにしている様子が伺えました。



稲刈り



足踏み脱穀機をしている様子



とうみをしている様子



籾摺りをしている様子

◎まとめとしてマルチメディアDAISY 図書を活用

12月の初めに、収穫祭として餅つきを計画しました。米づくりを知らない人にもどのような過程を経て米ができるのかわかるように、スライド作りに取り組みました。

6月の代かき・田植え、9月の稲刈り、10月の脱穀、とうみ、籾摺り、精米を5人で分担してその時の写真を選び貼りつけ、説明や感想を添えていきました。

【学習の流れ】

①『もみごめぼうやのだいへんしん』

をはじめから視聴をしました。これまでの米づくりの流れを思い出しました。

- ②活動の様子をみんなで見ました。分担を決め、担当する学習場面の写真を数枚選びパワーポイントをを使ってスライド作成をしました。
- ③使った道具や機械の名前を記述し感想が一言で終わらないように、もう一言考えてみることにしました。

【生徒の様子】

稲刈りのあと『もみごめぼうやのだいへんしん』の話の中では、1週間ほど日干しするとあったけれど、自分たちの稲はどのくらい干していたのかなといったつぶやきがありました。また、脱穀をした日は、3つの機械を使っていたけれど名前はなんだったのかな、この本に載っていたはずと本を見たり、インターネットで調べたりする姿も見られました。それぞれの活動の意味や役割がわかってくると感想に変化が出てきました。はじめの記述では「つかれた」「がんばった」「たのしかった」などの一言で終わっていた感想が「ふだんからこの作業をしている人は大変だろうな」といった感想へと変わっていったことが印象的でした。

収穫祭当日は、農園班が中心となって餅つきの準備をし、みんなの前でスライドを発表しました。発表の中で出

てきたクイズにみんなが答える姿は、恥ずかしそうにしつつも、どこか誇らしげに見えました。

みんなが、にぎやかに餅つきする姿や、「おいしい！おいしい！」と言って餅を食べる笑顔は、きっと自分たちが想像していなかった思わぬごほうびだったに違いありません。



収穫祭の餅つきの様子

マルチメディアDAISY図書を 活用して

◎成果と課題

冒頭に記述した通り、他の野菜も並行して育てているため、米づくりの活動の流れが、生徒たちの中で途切れがちになってしまうことに課題がありました。

本書は“もみごめぼうや”という主人公がストーリーテラーとなって米づくりの様子が描かれていました。これは生徒にとって、とてもわかりやすく、体験した活動の流れを理解し整理する一助となりました。中学生期の生徒に

とって教師による絵本の読み聞かせは多少抵抗があるものです。それがマルチメディアDAISY図書を視聴することで解消することができました。

スライドづくりにおいても、活動の紹介の仕方をイメージしたり、内容を参考にしたりすることができました。

マルチメディアDAISY図書を学習予定の導入やまとめとして活用することは生徒にとってはもちろん、指導者にとっても新しい気づきを与えてくれました。今後も、余暇だけでなく学習の中での活用を広げていけたらと思います。

